

Vol.02

5期までの歴史を紐解く

Y&I MAGAZINE

— 知ってほしい
IT PickUp —

社員interview
文屋 勇人

社員interview
小林 南帆

Y&I
特集



Y&I Group inc.

社員インタビュー

イチオシ社員を
ピックアップ!

MEMBERS



BUNYA YUTO

LOED MAP

過去から今....

高校で勉強はしてない。
とりあえず金あって必要最低限生きていければいい。
専門卒業後、就職してからもその気持ちは変わらない。
同じ会社で三年目に施工に配属されて日勤と夜勤を両方
やりながらの人生やっていくうえでもっとこうしたい
いのがあった。
このままの人生でいったら何もできなくな腐ってし
まう可能性があったので、趣味などもあったけど、全部
すてもう一度その趣味を全力でやれるようになるため
に上京してきた。覚悟を持って現状取り組んでいる。

IT/Web事業部 課長

佐藤さん

あざまー!
※ありがとうございます



文屋くんほどの頑張り
屋さんはいないんじゃないかっ
てくらいY&I Groupの社員の中でも
頑張ってくれています。この調子で
自分の夢を叶えてくれー!
みんな応援してるぞー! うおー!

ここが
いいね!

NEXT STAGE

将来的には....

- ・教育者としても一人前になりやっていきたい。
- ・今の環境の問題点を探しより一層よくしていきたい。
- ・誰よりも仕事して誰よりも遊びたい。
- 27までに会社をやっていききたい。
- ・そこまでゲームを作って配信して、知名度も上げて企業していきたい。
- ・自分の考えを共有して自分の会社としてやっていきたい。
- ・仕事の面白さを伝えたい。
- ・みんなが楽しく働ける環境を作っていきたい。



文屋 勇人 ぶんやゆうと
前職：施工管理

KOSEI SOZO



ITに対する熱い想い

前職が施工管理のサービスエンジニアをやっていた。
保守管理と施工をやっていて、ハード面での限界が見えた。
ソフトウェアに対する思いがあった。ソフトウェアでは理
論上可能と思ったのでそっちでやっていきたいと思ったの
がきっかけ元々モノづくりが好きな性格があった。
自分が作ったものがお客様に提供できたらうれしいと思
っている。ゲームが好きだから楽しいものを提供してい
きたい。っていうのを去年の夏にハード面での保守しかで
きなかったの不具合などもあって自分のいじれる部分が
ハードしかなかったの、ハードでいじっているときにソフ
トウェアでやった方が早いと思えそう考えるようになった。

会社に対する熱い想い

前職が施工管理のサービスエンジニアをやっていた。
保守管理と施工をやっていて、ハード面での限界が見えた。
ソフトウェアに対する思いがあった。ソフトウェアでは理
論上可能と思ったのでそっちでやっていきたいと思ったの
がきっかけ元々モノづくりが好きな性格があった。
自分が作ったものがお客様に提供できたらうれしいと思
っている。ゲームが好きだから楽しいものを提供してい
きたい。っていうのを去年の夏にハード面での保守しかで
きなかったの不具合などもあって自分のいじれる部分が
ハードしかなかったの、ハードでいじっているときにソフ
トウェアでやった方が早いと思えそう考えるようになった。



MEMBERS

イチオシ社員を
ピックアップ!

社員インタビュー

★ KOBAYASHI NAHO



小林南帆 こばやしなほ
前職：エステティシャン

LOED MAP

過去から今....

エステティシャンをやっていた。
国家資格はないけど、手に職をつけたいと思った。
スマホのアプリが好きだった。
ただ、将来エステをやりたいとは思ってなかったのは将来のビジョンが浮かばなかった。
そこで働いている店長10年間勤務しているともなかった
のでそこで転職を考えたときに、受付を探していたけど、
今できることをやろうとしていた。その時に転職サイトで
スカウトが来て、22歳だったけどIT業界にチャレンジ
してもいいかも。自分が作ったゲームができればいいかも、
長く売れる、愛されるアプリを作れたら嬉しいと思い
IT業界で先長い業界といわれているので、新しい業界
にチャレンジした。
実際にやってみて、エンジニアって人と触れる機会が多い
んだなって思った。
頼らせてくれる環境がいい。めちゃ頑張りました。

あざまー! IT/Web事業部 課長 佐藤さん
ありがとうございます。

小林さんほど、人当たりのいい人は見たことがありません。これからITの現場で活躍する姿を見るのが楽しみです! 頑張れ小林さん! みんな社内で小林さんを見かけたら話しかけるべし!

ここがいいね!

KOSEI SOZO

未来に対する熱い想い

国家資格はないけど、手に職をつけたいと思った。
なぜ手に職を付けたいと思ったかというと、ずっと生涯現役で働きたかったからのと、結婚するつもりがないから一人で働いて稼げるようになっていきたいと思ったのがきっかけです。スマホのアプリが好きで、将来エステをやりたいとは思ってなかったから将来のビジョンが浮かばなかった。
自分の未来を考えて、転職を考えたときに、自然と今できることをやろうと思ってしまっていた自分がいた。
未来は、常に変化しているのに自分は変化しない選択肢はないなと思い、今頑張っています。

会社に対する熱い想い

前の会社は全国展開していました。
Y&I Groupは人と人の距離が近く、風通しがいいです。
人に対しての想いが他の会社にはないものがあると思います。Y&I Groupにいる理由はここの人が好きだから。
Y&I Groupの活気ある環境は色々な性格の人がいるからこそ成り立っているんだなって思います。未経験からエンジニアを目指している人が多くいるので自分の将来に不安な人もいます。私も未経験で入って不安な時にサポートしてくれる人がいたらから頑張れました。
だからこそ、今度は自分がだれかをサポートする立場になり、会社に貢献していきたいです。



NEXT STAGE

将来的には....

困ったときに頼ってもらえるような人になっていきたい。
自分に話したら困った人を救えるような立場になっていきたい。
新しいものを作って、より経済を発展させていくパターンと今あるものを改善してより良くするパターンITのいろんな幅を学べる。



Y&I Group Inc.



Y&I Group株式会社設立
代表取締役 高橋悠太を筆頭に3名の創業メンバーと東京都中央区にて設立。人事コンサルティング事業、広告代理店事業を立ち上げる。

新規事業 -人材アウトソーシング事業-
人材アウトソーシング事業を開始。従業員数が20名に増加。

本社オフィス移転
事業拡大に伴い、本社を東京都港区赤坂へ移転。従業員数が30名に増加。人材アウトソーシング事業が100名。

本社オフィス移転
事業拡大に伴い、本社を東京都港区六本木に移転。広告代理店事業の拡大と提携業務先の増加。

新規事業 -IT/Web事業部-
受託開発を中心にIT/Web事業部を開始。現在までにWebサイト制作から管理システム改修まで。

新規事業 -マーケティング事業-
個人のお客様向けにライフラインのご提案をメインに、法人企業にはコスト削減を実現するオフィスコーディネートのご提案をメインにマーケティング事業を開始。

新規事業 -経理代行事業-
IT/Web事業部による、エンジニア教育の開始と同時に企業様・個人様へバックオフィス業務やサポートなどをメインとして、経理代行事業を開始。

IT/Web事業部 -エンジニア教育 SES-
IT/Web事業部にて、エンジニア教育の開始。同時にSES事業にも着手し、現在までにPT様含めて150、従業員数が50名に増加。

4月イベント 花見
徐々に仲間が増え始め30人くらいでお花見。桜がほぼ無いための食事とスポーツをする。



第二回 社員総会
100名以上の参加者を迎え、六本木のクラブにて開催。新サービスの発表や会社の今後の展開など。二次会も含めて大いに盛り上がる結果となりました。

新規サービス -Freeks-
これまで行ってきた社員へのプログラミング教育をIT/Web事業部の新規サービスとしてプログラミングスクール「Freeks」を開始。

本社オフィス移転
事業拡大に伴い、本社を東京都千代田区平河町へ移転。従業員数が80名に増加。提携企業様が100社を超える。

第一回 社員総会
総勢100名で第一回社員総会を開催。社員によるmovie制作や、成績優秀者の表彰式など盛り上がる会となりました。



5月イベント BBQ
管理職で率先して準備し、約50人でBBQ開催。前回のイベントよりも大人数で会社の勢いを感じる。



掲載 -ベンチャー通信-
2000年に創刊された起業家マインドを持った生き方を提案しているベンチャー業界紙の【ベンチャー通信】に弊社特集ページが掲載される。

2019ラストイベント 忘年会
新宿のダーツバーにて忘年会。120名参加し、ビンゴ大会や色々なイベントを行う。2020年に向け、目標や、会社の方向性を共有。



個性創造だ！



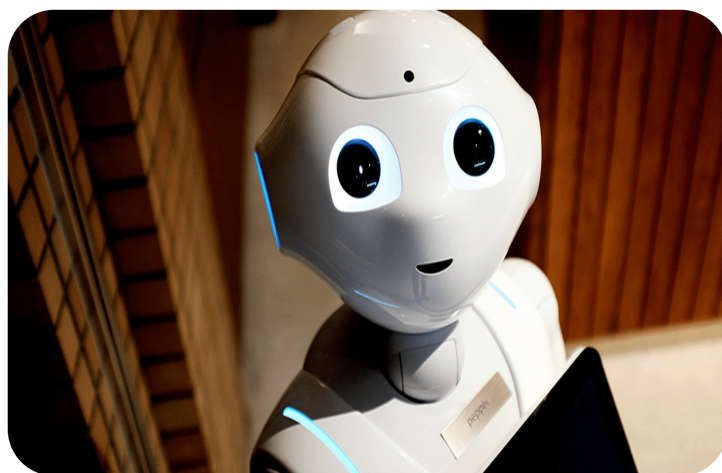
近未来はすぐそこに！ IT NEWS PICK UP！

Y&I
Group Inc.



IT技術の進化

近年、めまぐるしい変化を見せているIT分野。様々な情報がスマホひとつで調べられ、ネットショッピングのサービスを使えば、わざわざ店舗に足を運ばなくても欲しいものが家に届く。そんなITの進化が進んでいる中で、AIという言葉をよく耳にするのではないのでしょうか。AIは自己学習能力をもっており、予め大量の知識を与えておくとも人間の力を借りずとも動作し、自ら学習することができます。現状使われているサービスは、スマホの顔認証、自動運転などです。今後それらのサービスによって生活が大きく変わっていくことは間違いないので、他人事と思わず理解を深めていく事をおすすめします。しかし、まだ技術は完璧というわけではなく、最近話題になっているAIの技術を使用した無人コンビニ決済のシステムも誤作動の場合に備えて人が常駐しています。そして実際にはAIを作っているのは人間なのです。将来どんなエンジニアになりたいか、どんなサービスを作りたいかが明確に決まっていらない方は、人工知能をサービスを使う側ではなく、作る側になるのも考えてみてはいかがでしょうか。



AIってどうやって作るの？

気になるAIの作り方ですが、無料ツールやWebサービスを使って作成すればものすごく簡単に作ることができます。AI開発で必要になる一般的な機能をまとめたフレームワークを使ってAIを作る方法です。Pythonという言語を使っているPyTorchや、googleが開発しオープンソースで提供しているTensorFlowなどがあります。これらの方法でAIの開発を進めることで個人でも比較的簡単にAIを作ることは可能です。様々なプログラミング言語がある中でPythonの学習は必須になることでしょう。皆さんご存知のFacebookや、Googleでも採用されている言語です。どのような学習の方法で学ぶかや、作りたいAIの種類によってPythonの習得に必要な期間は異なり、Webシステムをひとりで開発できるレベルになるのに必要な勉強時間の目安は、およそ300から400時間かかるといわれています。もちろん個人差はありますが、止まることのないITの進化についていく為、人工知能を「使う側」ではなく「作る側」になる為に学んでおくことは決して無駄にはならないでしょう。



無人レジの導入

最近コンビニでもセルフレジが増えてきた中、さらに踏み込んだ無人レジが現れたのをご存じでしょうか。システムとしては、顧客は入店する前に、専用アプリをダウンロードしてクレジットカード情報を登録する。アプリ上でQRコードを生成し、入口のゲートにかざすと入店でき、店内には複数のセンサーとカメラを配置。手のひらの静脈と顔情報で本人を特定する技術を活用し、顧客の動きを確認する。顧客が手に取った商品の種類と個数は、棚に配置したセンサーでカウントし、自動決済される。このシステムは従業員がレジを打つ負担と、顧客がレジに並ぶ手間を解消し、業務効率化と利便性向上を同時に実現する狙いがあるのです。人件費削減や防犯にも役立つと思われる一方、ITに慣れ親しみが無い年代は厳しい意見があったりと是非は分かれるが、ITを勉強する身としてはどう思うでしょうか。IT技術が進む欧米では大手Amazonがスーパーマーケット規模で実現に向けて始動しています。世界はITの進歩が進み、日本もどんどんIT化が進み、今後より一層エンジニアの仕事は増えていくことでしょう。



今後消えてしまう職業

ITの進化によって消えゆく職業が話題になっている。小売店販売員、トラックの運転手、不動産ブローカー、レストランの案内係、レジ係、映画館やテーマパークのチケット係、ネイリスト、ホテルの受付、保険の審査担当者、プログラマーの職業などが挙げられています。自動運転やドローンの技術はこれから世界に行き渡り、そうなればタクシーやトラックの運転手はAIが行うようになるのです。しかし現実問題として、自動運転機能が「渋滞」や「車線変更」などのハードルをクリアできるかは未知数です。AIにも弱点があり、万が一コンピュータトラブルや交通事故が起こったとき大惨事につながり、怪我を負っている人が2人いた場合、どちらの救護を優先すべきかの選択などができないことから、すぐに今の職を失うわけではありません。また、消えゆく仕事の中にプログラマーが挙げられているのも意外ですね。つまりコードを書けるだけのプログラマーは、もしかするとAIに仕事を任せられて、活躍の場を失ってしまう可能性も出てくるのです。



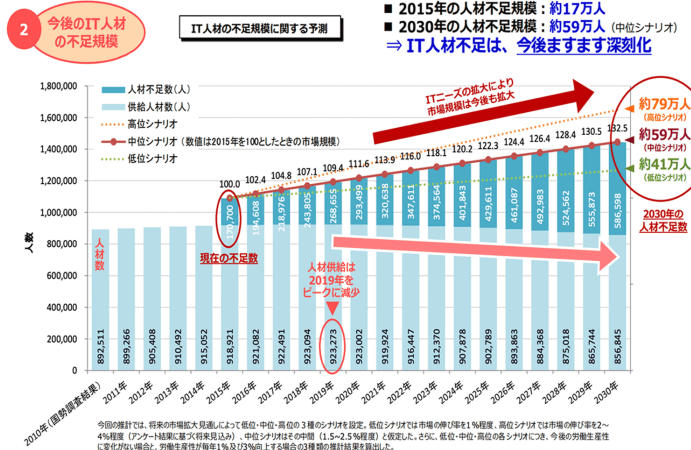
VRは生活を変えるのか

VRとはvirtual reality（バーチャルリアリティ）の略語であり、コンピューターにより作られた仮想空間を表現する技術のことを言います。ゴーグルやグローブなどVR用に開発されたアイテムを使うことで、仮想空間を体験できますが、個人レベルで考えるとVRの普及はまだです。VRの利点としては、より臨場感に溢れたゲームができたり、体の不自由なお年寄りでも、まるで海外旅行をしているような体験ができたりと今後の活躍が期待されます。VRは企業でも活用されていて、住宅業界では、賃貸物件や分譲物件の窓の高さや、フローリングの色など、図面だけでは分からない情報も簡単に把握できますし、ファッション業界では、実際に店舗へ出向かなくても、本当に実店舗で買い物をしているような体験をすることが可能になります。加えて、気になった洋服の素材や価格の確認もできるようになれば、田舎に住んでいて、なかなか都会へショッピングに行けないという人や、人混みが苦手という人もショッピングを楽しむことが可能になります。ちなみに、VRは、Unityというツールで作成することが可能で、プログラミング言語を使わなくても直観的に作成制ることができるので興味がある方はぜひ挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。



エンジニアの必要性和将来性

SEの将来性を考えたとき、前項で記述したAIエンジニア、データサイエンティスト、IoT技術者といった職種が代表的に上げられます。AIエンジニアは、ディープラーニングなどの手法を活用し、大量のデータを用いてAIモデルを構築し、AIを活用したシステムの土台づくりを担う職種です。構築されたAIモデルは医療や自動車、物流などさまざまな分野で活躍が期待されています。データサイエンティストは、統計学やプログラミング言語を使用してビッグデータの分析を行い、業務効率化や新しいビジネスの創出の支援をします。例えば、今まで店員の経験でしか分からなかったお客様の嗜好性をシステム的に見えるようにし、商品の改善につなげていき、製造業や小売業、金融業など幅広い業界で需要が高まっていくでしょう。IoT技術者は、デバイスやセンサーなどの制御プログラムを実装しIoTシステムの開発などを担う職種であり、IoT家電の開発など、主に製造業などで活躍が期待されています。これらの職種が必要とされていない業界はないといっても過言ではありません。これらの職種に就くには、該当する先端技術だけでなく、その周辺スキルの習得がカギとなります。例えばAIシステムの開発現場では、AIエンジニアだけでなく、システムの実行基盤を構築して運用を行うエンジニアやプロジェクトを管理する人材であったり、AIを活用した製品やサービスを企画し、市場に売り出す人材が求められていくことでしょう。



SEの需要と供給

最近ではテレビや新聞でもIT市場の拡大がテーマに挙げられることも多い世の中になってきました。平成28年に経済産業省が発表した「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」によると、2030年には約79万人のIT人材が不足するというデータが出ています。この調査結果から現在のSEの需要は高いと考えていいでしょう。世の中のIT企業は、人材不足をいかに解決するかを今後の大きな課題として抱えているのです。主な理由としては、既存IT技術者の高齢化による定年退職が影響しているからと考えられます。労働力人口が減少する一方で、現代の産業はITの利活用が必要不可欠となっており、IT市場は年々拡大を続けていて、労働力人口の減少とIT案件の増加が同時に起こっている事が深刻なIT人材不足を招いていると言えるのです。将来的に需要が高まると言われているIT人材の特徴について市場価値が高まる人材の特徴を押さえながら、今後のキャリアに役立てるにはどうしたらよいのか考えてみます。AIやビッグデータ、IoTに対応できる「先端IT人材」が挙げられます。AIやビッグデータ、IoT等の先端技術を駆使して新しいシステムを開発する先端IT人材は、今後ますます需要が高まっていくでしょう。



第5期 スローガン 個性創造～Find your stage～

ここでは、SEの需要状況や将来性について考察しました。将来的に大幅な人材不足が予想され、IT技術のスキル習得は、将来性を担保する上で有効な手段のひとつです。一方で、従来のIT領域の需要がなくなるわけではありませんので、SEとして活躍し続ける手段も複数あります。どの領域においても大切なのは、今後の変化する技術やニーズをすばやく察知して柔軟に対応していくことです。

Y&I Group株式会社の第5期スローガンとして【個性創造～Find your stage～】を掲げました。第5期には未経験から開発現場に入る社員の育成が100名を超えると予想され、各開発案件、現場において様々な技術と「個性」を身に付けるエンジニアが増加します。また、弊社の第5期の動きとして、支社展開、新規サービス、受託開発、管理者の増加など、各ポジションごとにPMとして、SEとして、マネジメントやマーケティングなど様々な個性が必要となります。IT業界の進化に伴い、周りの人材よりもワンステップ上で活躍できるよう技術をつけると同時に、個性を磨くことで自分自身が輝ける「個性」と「ポジション」を見つけて、会社の成長と自分の成長のベクトルを合わせて新たなステージへ駆け上がってほしいと考えています。